

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	㈱なんてん共働サービス	代表者	中村 定義	法人・事業所の特徴	認知症になっても、障害があってもいつまでも住み慣れた所で、自分らしくみんなと一緒に 助け合って 暮らし続けることができるような 手助けをする
事業所名	小規模多機能型居宅介護 樹林	管理者	北村 睦美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	1人	1人	1人	人	2人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	評価の意図についての説明、全体会議での評価ができる	個人評価 13 名が参加 事業所評価は運営委員 4 名で行うことができた 評価の意図について理解できる スタッフが増えた	評価の結果を運営推進会議で報告した際、身体拘束・虐待への意識に個人差があるとの指摘をいただく	普段から自己評価の 9 項目について意識、振り返りができるような月 1 回ミーティング、半年ごとに個別面談ができるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	おとしよりそれぞれの居心地がよい環境づくりに取り組む	生活の場が 1 フロアである為、個別での会話や、スタッフの業務連絡などすべてが耳に入る状況は変わっていない	個々が穏やかに過ごせる場が少ないのが今後の課題 地域の方が気軽に訪問してもらえるように玄関や窓のカーテンを開放しているが、おとしよりの安全のために施錠をしないといけない場合もある	スタッフがおとしよりに寄り添っている時間が減っていないかを月 1 回定期的に振り返る。1 日の中でスタッフがおとしよりと 1 対 1 でゆっくり対話できる傾聴時間を意図的に設け、お年寄りが自分の居場所を実感できる精神的な環境づくりを強化する。
C. 事業所と地域のかかわり	イベント（地蔵盆、芋ほり・焼き芋）を継続し、地域の方に参加していただく	イベントを継続することができた 地蔵盆を樹林室内でゲームができるように変更した 地蔵盆に参加してくださる地域の方が減っている	地蔵盆は猛暑の中で開催するのは心配であるという意見をいただく。焼き芋のお手伝いをいただいていた来年は民生委員さんが交代になられる。今後お願いしたい。	地域の方が興味を持たれるような内容（認知症や介護予防教室など）の広報誌を作り近隣世帯や民生員に年 2 回配布できるようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	途切れていた保育所との交流を少しでもいいので始める	保育所の園児さんが芋ほりに参加して下さり、おとしよりと直接交流ができた 区のお祭りにおとしよりと参加した	保育所との交流がはじめられたのは良かった。 祭りに参加し、地域の方に樹林の存在を知っていただける機会となった	年間の区の行事予定を把握し、おとしよりと一緒に季節の行事に年 2 回は参加する。

<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<p>委員からいただいた情報や意見を樹林内部の会議などで周知する</p>	<p>高齢福祉課から、介護講習会の情報提供があり、ご家族が早速申し込みをされ、受講して下さっていた 虐待案件、事故報告などに対しての助言をいただき、樹林の運営会議等で共有することができた</p>	<p>事業所での取り組みや、事故の報告など正直に伝えて、改善しようとされる取り組みが見えて良い 地域での取り組みについての情報が少ない、事例検討の情報提供もない 民生委員が樹林のおとしよりに関わって下さっていることの情報共有ができています</p>	<p>会議の始め 15 分間、事業所内の見学を定例化し、外部の視点からフロアの掲示物の見やすさやスタッフのおとしよりへの声掛けのトーンについて意見をいただく。その改善経過を次回会議で報告できるようなサイクルを作る。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>運営推進会議で BCP 訓練と避難訓練の報告を行う</p>	<p>報告できていない 消防計画が樹林スタッフや運営推進会議で周知できていない</p>	<p>参加していると思うが報告がない まだまだ防災計画への取り組みが不足している 地域の方に参加ただけのような避難訓練を企画してもいいのでは</p>	<p>従来の訓練に加え年 1 回近隣の指定避難所までの移動シュミレーションを伴う実地訓練を行う。</p>